

(4) 各消防用設備等又は特殊消防用設備等概要表記載要領

様式第2号 屋内消火栓設備・屋外消火栓設備・水噴霧消火設備・泡消火設備の概要表記載要領

- |   |             |   |
|---|-------------|---|
| ① | 概要表の表題      | ・概要表の表題は、該当する消火設備を選択する。なお、提出を必要とする消火設備が複数あり、同一の着工届出書で提出する場合、設備ごとに概要表を作成する。                                      |
| ② | 水源          | ・水源について、専用若しくは他の設備等と兼用を選択する。  |
| ③ | 種別          | ・水源の種別について、該当するものを選択する。   |
| ④ | 有効水量(当該設備用) | ・各消防機関の定めるところにより算出し、記入する。   |
| ⑤ | 構造          | ・水源構造について、該当するものを選択する。  |
| ⑥ | ポンプ、電動機     | ・専用若しくは他の設備等との兼用を選択し、仕様を記入する。   |
| ⑦ | 認定番号        | ・(一財)日本消防設備安全センターの認定番号及び基本型・ユニット型の区分を記入する。  |
| ⑧ | 呼水装置        | ・設置の有無を選択する。<br>・有を選択した場合、有効容量を記入する。  |
| ⑨ | 減水警報の表示場所   | ・呼水装置の減水警報が表示される階及び場所名を記入する。  |
| ⑩ | 起動用圧力タンク    | ・設置の有無を選択し、有を選択した場合、容量を記入する。  |
| ⑪ | ポンプ設置場所     | ・設置する階及び場所名を記入する。   |
| ⑫ | 高架水槽方式      | ・高架水槽方式で送水する場合は、有効落差を記入する。  |
| ⑬ | 圧力水槽方式      | ・圧力水槽方式で送水する場合は、加圧圧力及び内容積を記入する。   |
| ⑭ | 屋内消火栓       | ・屋内消火栓設備を設置する場合、1号消火栓、2号消火栓、易操作性1号消火栓及び広範囲型2号消火栓ごとの設置個数及びその合計設置個数を記入する。   |
| ⑮ | 屋外消火栓       | ・屋外消火栓設備を設置する場合、設置個数を記入する。  |
| ⑯ | ホース         | ・上記⑭、⑮の消火栓箱に収納するホースの長さ及び本数を記入する。  |
| ⑰ | 表示灯         | ・上記⑭、⑮の消火栓箱の内部又はその直近に設置する表示灯について専用若しくは他の消防用設備等の兼用を選択する。   |
| ⑱ | 噴霧ヘッド       | ・水噴霧消火設備の噴霧ヘッドについて、標準放射量、標準放射圧力及び放射角度を記入する。   |
| ⑲ | 泡放出口        | ・泡消火設備の放出口について、該当するヘッド等を選択し、設置個数を記入する。  |
| ⑳ | 泡消火設備の方式    | ・泡消火設備を設置する場合、固定式若しくは移動式を選択する。<br>・固定式を選択した場合、全域若しくは局所を選択する。<br>・高発泡若しくは低発泡を選択する。<br>・一斉開放弁を設置する場合、口径及び個数を記入する。 |
| ㉑ | 泡消火薬剤       | ・泡消火設備を設置する場合、泡消火薬剤の種別、貯蔵量、希釈容量濃度及び混合方式を選択する。   |
| ㉒ | 放水(出・射)区域   | ・水噴霧消火設備及び泡消火設備について、区域数(一斉開放弁又は制御弁の数に同じ。)を記入し、その中の最大と最小の放水(出・射)区域面積、放水(出・射)量及び放出体積を記入する。                        |
| ㉓ | 起動装置        | ・ポンプ起動方式、起動感知方式若しくは手動式開放弁を選択する。   |
| ㉔ | 自動警報装置      | ・流水検知装置、圧力検知装置又はその他を選択する。<br>・流水検知装置を選択した場合、口径及び個数を記入する。<br>・圧力検知装置を選択した場合、個数を記入する。                             |
| ㉕ | 配管          | ・立上がり管の口径を記入する。<br>・配管の材料、止水弁及び逆止弁の材料を記入する。<br>・配管の専用若しくは兼用を選択し、兼用を選択した場合、( 設備)内に設備名を記入する。                      |

- |    |          |  |
|----|----------|--|
| ②⑥ | 水温上昇防止措置 | ・逃がし配管又は温度検出電磁弁等の措置方法を記入する。  |
| ②⑦ | 補助用高架水槽  | ・容量を記入する。  |
| ②⑧ | 凍結防止措置   | ・措置の方法及び範囲等を記入する。  |
| ②⑨ | 減圧調整措置   | ・措置の方法、型式、範囲等を記入する。  |
| ③⑩ | 耐震措置     | ・措置の方法、管径、範囲等を記入する。  |
| ③⑪ | その他      | ・その他特別なことがあれば記入する。   |
| ③⑫ | ブースターポンプ | ・ポンプの口径、吐出量、全揚程及び電動機の出力並びに補助水槽の容量を記入する。  |
| ③⑬ | 常用電源     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・AC・DCの区分により、該当するものを選択する。</li> <li>・ACを選択した場合、電圧を記入し、電源回路について該当するものを選択する</li> <li>・DCを選択した場合、容量を記入し、充電方式及び使用別について該当するものを選択する。</li> </ul>                          |
| ③⑭ | 非常電源     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・該当する設備を選択する。</li> <li>・自家発電設備を選択した場合、出力を記入するとともに使用別を選択する。</li> <li>・蓄電池設備を選択した場合、電圧及び容量を記入するとともに、充電方式及び使用別を記入する。</li> <li>・非常電源専用受電設備を選択した場合、電圧を記入する。</li> </ul> |
| ③⑮ | 配線       | ・該当する回路毎の施工方法を選択する。  |
| ③⑯ | その他      | ・耐火電線等に接続部が生じる場合、その工法名を記入する。詳細については、4.(2).⑨による。  |

① 屋内消火栓設備・屋外消火栓設備 } の概要表  
 水噴霧消火設備・泡消火設備 }

様式第2号

②水源		専用・兼用		③種別		地下ピット・床置き・その他( )		④有効水量(当該設備用)		6 m <sup>3</sup>		⑤構造		RC・FRP・その他( )					
加圧送水装置	ポンプ方式 ユニット型		⑥ポンプ、電動機		専用・兼用		口径 × 吐出量 × 全揚程 × 出力		電圧		200V		65 φ × 300 L/min × 70 m × 11 kw						
	⑦認定番号		⑧呼水装置		有・無		有効容量		100 L		⑨減水警報の表示場所		1階防災センター						
	〇〇〇〇		⑩起動用圧力タンク		有・無		容量		L		⑪ポンプ設置場所		地下2階ポンプ室						
	⑫高架水槽方式		有効落差		m		⑬圧力水槽方式		加圧圧力		MPa		内容積		m <sup>3</sup>				
⑭屋内消火栓		1号		16 個		易操作性1号		個											
		2号		個		広範囲型2号		個		合計		16 個							
⑮屋外消火栓		個		⑯ホース		長さ		25 m		2 本		⑰表示灯		専用・兼用					
⑱噴霧ヘッド		標準放射量		L/min		標準放射圧力		MPa		放射角度		°							
⑲泡放出口		フォームヘッド		個		フォームウォータースプリンクラーヘッド		個											
		高発泡用泡放出口		個		泡ノズル		個		その他( )		個							
⑳泡消火設備の方式		固定式(全域・局所)・移動式		高発泡・低発泡		一斉開放弁		A 個											
㉑泡消火薬剤		種別		たん白泡・合成界面活性剤・水成膜泡		貯蔵量		L		希釈容量濃度		%							
		混合方式		差圧混合方式・管路混合方式・圧入混合方式・ポンプ混合方式・その他( )															
㉒放水(出・射)区域		区域数		最大		放水(出・射)面積		m <sup>2</sup>		放水(出・射)量		L/min		放出体積		m <sup>3</sup>			
		区域		最小		放水(出・射)面積		m <sup>2</sup>		放水(出・射)量		L/min		放出体積		m <sup>3</sup>			
㉓起動装置		ポンプ起動方式		自火報発信機・専用スイッチ		起動用水圧閉鎖装置・流水検知装置・その他( )													
		起動感知方式		スプリンクラーヘッド・感知器・その他( )		手動式開放弁													
㉔自動警報装置		流水検知装置		A 個		圧力検知装置		個		その他									
㉕配管		立上がり管口径		100 A		材質		JIS G 3452		専用・兼用( )		設備							
		止水弁		JIS B 2031		逆止弁		JIS B 2031		その他( )									
附属装置		㉖水温上昇防止措置		逃し配管		㉗補助用高架水槽		500ℓ		㉘凍結防止措置		なし							
		㉙減圧調整措置		定圧定量弁 1階以下		㉚耐震措置		フレキシブルチューブ 100mm×120cm×2ヶ所		㉛その他									
㉜ポンプスタンプ		ポンプ、電動機		口径 × 吐出量 × 全揚程 × 出力		補助水槽													
				φ × L/min × m × kw		m <sup>3</sup>													
				φ × L/min × m × kw		m <sup>3</sup>													
電		㉝常用電源		単相・三相		AC		200 V		電灯回路・動力回路									
				DC		V		AH		充電方式		トリクル・浮動		使用別		専用・共用			
源		㉞非常電源		自家発電設備		単相・三相		AC・DC		200 V 1,000 kVA		使用別		専用・共用					
				蓄電池設備		DC		V		AH		充電方式		トリクル・浮動		使用別		専用・共用	
				非常電源専用受電設備		単相・三相		AC		V									
配線		常用電源回路		露出ケーブル・電線管露出・電線管理設		その他( )													
		非常電源回路		耐火電線・電線管露出・電線管理設		その他( )													
		警報回路		耐火電線・電線管露出・電線管理設		その他( )													
		その他の回路		IV電線・露出ケーブル・電線管露出・電線管理設		その他( )													
その他		耐火電線		……		ボックス内接続工法													
		耐熱電線		……		テープ巻式直線接続工法													

備考 1 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とすること。  
 2 選択肢の併記してある欄は、該当事項を○で囲むこと。

①  
 屋内消火栓設備・**屋外消火栓設備** } の概要表  
 水噴霧消火設備・泡消火設備 }

様式第2号

②水源		専用・ <b>兼用</b>	③種別		<b>地下ピット</b> ・床置き・その他( )	④有効水量(当該設備用)		32 m <sup>3</sup>	⑤構造		<b>RC</b> ・FRP・その他( )		
加圧送水装置	ポンプ方式 ユニット型	⑥ポンプ、電動機		<b>専用</b> ・兼用	口径 × 吐出量 × 全揚程 × 出力								
		電圧		200V	80 φ × 800 L/min × 70 m × 15 kw								
	⑦認定番号	呼水装置		<b>有</b> ・無	有効容量		100 L	⑨減水警報の表示場所		<b>地下2階ポンプ室</b>			
	〇〇〇〇	⑩起動用圧力タンク		有・無	容量		L	⑪ポンプ設置場所		<b>地下2階ポンプ室</b>			
⑫高架水槽方式	有効落差		m	⑬圧力水槽方式		加圧圧力		MPa	内容積		m <sup>3</sup>		
⑭屋内消火栓	1号		個		易操作性1号		個						
	2号		個		広範囲型2号		個		合計		個		
⑮屋外消火栓	3 個		⑯ホース		長さ 20 m		2 本		⑰表示灯		<b>専用</b> ・兼用		
⑰噴霧ヘッド	標準放射量		L/min		標準放射圧力		MPa		放射角度 °				
⑱泡放出口	フォームヘッド		個		フォームウォーターズプリンクラーヘッド		個						
	高発泡用泡放出口		個		泡ノズル		個		その他( ) 個				
⑳泡消火設備の方式	固定式(全域・局所)・移動式		高発泡・低発泡		一斉開放弁		A		個				
㉑泡消火薬剤	種別	たん白泡・合成界面活性剤・水成膜泡		貯蔵量		L		希釈容量濃度		%			
	混合方式	差圧混合方式・管路混合方式・圧入混合方式・ポンプ混合方式・その他( )											
㉒放水(出・射)区域	区域数	最大	放水(出・射)面積		m <sup>2</sup>		放水(出・射)量		L/min		放出体積	m <sup>3</sup>	
	区域	最小	放水(出・射)面積		m <sup>2</sup>		放水(出・射)量		L/min		放出体積	m <sup>3</sup>	
㉓起動装置	ポンプ起動方式	自火報発信機・ <b>専用スイッチ</b> ・起動用水圧開閉装置・流水検知装置・その他( )											
	起動感知方式	スプリンクラーヘッド・感知器・その他( )									手動式開放弁		
㉔自動警報装置	流水検知装置		A		個		圧力検知装置		個			その他	
㉕配管	立上がり管口径	100 A		材質		JIS G 3452		<b>専用</b> ・兼用( )		設備)			
	止水弁	JIS B 2031		逆止弁		JIS B 2031		その他( )					
附属装置	㉖水温上昇防止措置	<b>逃し配管</b>		㉗補助用高架水槽		500ℓ		㉘凍結防止措置					
	㉙減圧調整措置	<b>なし</b>		㉚耐震措置		フレキシブルチューブ 80mm×120cm×2ヶ所		㉛その他					
㉜ポンプ	ポンプ、電動機	口径 × 吐出量 × 全揚程 × 出力		補助水槽									
		φ × L/min × m × kw		m <sup>3</sup>									
		φ × L/min × m × kw		m <sup>3</sup>									
電源	㉝常用電源	単相		<b>三相</b> AC		200 V		電灯回路		<b>動力回路</b>			
		DC V		AH		充電方式		トリクル・浮動		使用別		<b>専用</b> ・共用	
	㉞非常電源	自家発電設備		単相		三相 AC・DC		V		kVA		使用別	専用・共用
		蓄電池設備		DC V		AH		充電方式		トリクル・浮動		使用別	
非常電源専用受電設備		単相		<b>三相</b> AC		200 V							
㉟配線	常用電源回路	露出ケーブル・電線管露出・ <b>電線管理設</b> ・その他( )											
	非常電源回路	<b>耐火電線</b> ・電線管露出・電線管理設・その他( )											
	警報回路	<b>耐熱電線</b> ・電線管露出・電線管理設・その他( )											
	その他の回路	IV電線・露出ケーブル・電線管露出・電線管理設・その他( )											
㊱その他	<b>耐火電線</b> …… <b>テープ巻式単心直接接続工法</b> <b>耐熱電線</b> …… <b>テープ巻式分岐接続工法</b>												

備考 1 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とすること。  
 2 選択肢の併記してある欄は、該当事項を○で囲むこと。

① 屋内消火栓設備・屋外消火栓設備 } の概要表  
 水噴霧消火設備・泡消火設備 }

様式第2号

②水源		専用・兼用		③種別		地下ピット・床置き・その他( )		④有効水量(当該設備用)		20.8 m <sup>3</sup>		⑤構造		RC・FRP・その他( )			
加圧送水装置	ポンプ方式 ユニット型		⑥ポンプ、電動機		専用・兼用		口径 × 吐出量 × 全揚程 × 出力		150 φ × 2,500 L/min × 70 m × 55 kw		電圧		200V				
	⑦認定番号		⑧呼水装置		有・無		有効容量		L		⑨減水警報の表示場所						
	〇〇〇〇		⑩起動用圧力タンク		有・無		容量		L		⑪ポンプ設置場所		地下2階ポンプ室				
	⑫高架水槽方式		有効落差		m		⑬圧力水槽方式		加圧圧力		MPa		内容積		m <sup>3</sup>		
⑭屋内消火栓		1号 個		易操作性1号 個		2号 個		広範囲型2号 個		合計				個			
⑮屋外消火栓		個		⑯ホース		長さ		m		本		⑰表示灯		専用・兼用			
⑱噴霧ヘッド		標準放射量		90 L/min		標準放射圧力		MPa		放射角度		°					
⑲泡放出口		フォームヘッド		個		フォームウォーターズプリンクラーヘッド		個		高発泡用泡放出口		個		泡ノズル 個		その他( ) 個	
⑳泡消火設備の方式		固定式(全域・局所)・移動式		高発泡・低発泡		一斉開放弁		A		個							
㉑泡消火薬剤		種別		たん白泡・合成界面活性剤・水成膜泡		貯蔵量		L		希釈容量濃度		%					
		混合方式		差圧混合方式・管路混合方式・圧入混合方式・ポンプ混合方式・その他( )													
㉒放水(出・射)区域		区域数		最大		放水(出・射)面積		50 m <sup>2</sup>		放水(出・射)量		500L/min		放出体積		200 m <sup>3</sup>	
		80 区域		最小		放水(出・射)面積		35 m <sup>2</sup>		放水(出・射)量		350L/min		放出体積		140 m <sup>3</sup>	
㉓起動装置		ポンプ起動方式		自火報発信機・専用スイッチ・起動用水圧開閉装置・流水検知装置・その他( )		起動感知方式		スプリンクラーヘッド・感知器・その他( )		手動式開放弁							
㉔自動警報装置		流水検知装置		A		個		圧力検知装置		個		その他					
㉕配管		立上がり管口径		150 A		材質		JIS G 3452		専用・兼用( )		設備					
		止水弁		JIS B 2031		逆止弁		JIS B 2031		その他( )							
附属装置		㉖水温上昇防止措置		逃し配管		㉗補助用高架水槽		500ℓ		㉘凍結防止措置		露出配管の被覆					
		㉙減圧調整措置		耐震措置		フレキシブルチューブ		150mm×150cm×2ヶ所		㉚その他							
㉛ブースター		ポンプ、電動機		口径 × 吐出量 × 全揚程 × 出力		補助水槽											
				φ × L/min × m × kw		m <sup>3</sup>											
				φ × L/min × m × kw		m <sup>3</sup>											
電源		㉜常用電源		単相・三相 AC 200 V		電灯回路・動力回路											
				DC V AH		充電方式		トリクル・浮動		使用別		専用・共用					
		㉝非常電源		自家発電設備		単相・三相 AC・DC 200 V 1,000 kVA		使用別		専用・共用							
				蓄電池設備		DC V AH		充電方式		トリクル・浮動		使用別		専用・共用			
				非常電源専用受電設備		単相・三相 AC V											
配線		常用電源回路		露出ケーブル・電線管露出・電線管理設・その他( )		非常電源回路		耐火電線・電線管露出・電線管理設・その他( )		警報回路		耐熱電線・電線管露出・電線管理設・その他( )		その他の回路		IV電線・露出ケーブル・電線管露出・電線管理設・その他( )	
その他		耐火電線		テープ巻式多心直線接続工法		耐熱電線		ボックス内直線接続工法									

備考 1 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とすること。  
 2 選択肢の併記してある欄は、該当事項を○で囲むこと。

屋内消火栓設備・屋外消火栓設備 } の概要表  
 水噴霧消火設備・**泡消火設備** }

様式第2号

②水源		専用・兼用		③種別		地下ピット・床置き・その他( )		④有効水量(当該設備用)		20.8 m <sup>3</sup>		⑤構造		RC・FRP・その他( )			
加圧送水装置	ポンプ方式 ユニット型		⑥ポンプ、電動機		専用・兼用		口径 × 吐出量 × 全揚程 × 出力		80 φ × 700 L/min × 60 m × 11 kw		電圧		200V				
	⑦認定番号		⑧呼水装置		有・無		有効容量		100 L		⑨減水警報の表示場所		1階防災センター				
	〇〇〇〇		⑩起動用圧力タンク		有・無		容量		L		⑪ポンプ設置場所		地下1階ポンプ室				
	⑫高架水槽方式		有効落差		m		⑬圧力水槽方式		加圧圧力		MPa		内容積		m <sup>3</sup>		
⑭屋内消火栓		1号		個		易操作性1号		個									
		2号		個		広範囲型2号		個		合計				個			
⑮屋外消火栓				個		⑯ホース		長さ		m		本		⑰表示灯		専用・兼用	
⑱噴霧ヘッド		標準放射量		35 L/min		標準放射圧力		MPa		放射角度		°					
⑲泡放出口		フォームヘッド		350 個		フォームウォータースプリンクラーヘッド								個			
		高発泡用泡放出口		個		泡ノズル		個		その他( )				個			
⑳泡消火設備の方式		固定式(全域・局所)・移動式		高発泡		低発泡		一斉開放弁		80 A		18 個					
㉑泡消火薬剤		種別		たん白泡・合成界面活性剤・水成膜泡		貯蔵量		300 L		希釈容量濃度		3.0 %					
		混合方式		差圧混合方式・管路混合方式・圧入混合方式・ポンプ混合方式・その他( )													
㉒放水(出・射)区域		区域数		最大		放水(出・射)面積		85 m <sup>2</sup>		放水(出・射)量		350L/min		放出体積		340 m <sup>3</sup>	
		18 区域		最小		放水(出・射)面積		50 m <sup>2</sup>		放水(出・射)量		175L/min		放出体積		200 m <sup>3</sup>	
㉓起動装置		ポンプ起動方式		自火報発信機・専用スイッチ・起動用水圧開閉装置		流水検知装置		その他( )									
		起動感知方式		スプリンクラーヘッド		感知器		その他( )		手動式開放弁							
㉔自動警報装置		流水検知装置		A		個		圧力検知装置		個		その他					
㉕配管		立上がり管口径		150 A		材質		JIS G 3452		専用・兼用( )		設備					
		止水弁		JIS B 2031		逆止弁		JIS B 2031		その他( )							
附属装置		㉖水温上昇防止措置		逃し配管		㉗補助用高架水槽				㉘凍結防止措置							
		㉙減圧調整措置				㉚耐震措置		フレキシブルチューブ 80mm×120cm×2ヶ所		㉛その他							
㉜ブースター		ポンプ、電動機		口径 × 吐出量 × 全揚程 × 出力						補助水槽							
				φ × L/min × m × kw						m <sup>3</sup>							
				φ × L/min × m × kw						m <sup>3</sup>							
電源		㉝常用電源		単相・三相		AC 200 V		電灯回路・動力回路									
				DC V		AH		充電方式		トリクル・浮動		使用別		専用・共用			
		㉞非常電源		自家発電設備		単相・三相		AC・DC 200 V 1,000 kVA		使用別		専用・共用					
				蓄電池設備		DC V AH		充電方式		トリクル・浮動		使用別		専用・共用			
				非常電源専用受電設備		単相・三相		AC V									
㉟配線		常用電源回路		露出ケーブル・電線管露出・電線管理設		その他( )											
		非常電源回路		耐火電線		電線管露出・電線管理設		その他( )									
		警報回路		耐熱電線		電線管露出・電線管理設		その他( )									
		その他の回路		IV電線		露出ケーブル・電線管露出・電線管理設		その他( )									
㊱その他		耐火電線		……		テープ巻式単心分岐接続工法											
		耐熱電線		……		ボックス内直線接続工法											

備考 1 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とすること。  
 2 選択肢の併記してある欄は、該当事項を○で囲むこと。